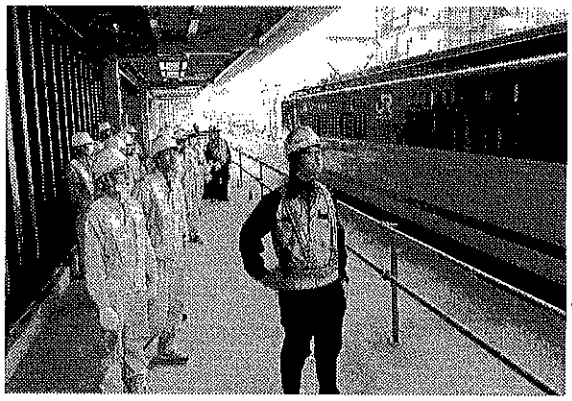
11月 18日(金) 建設通信

最前線現場を見学

大建協
おおさか東線に布施工高生



通過する電車に対する安全対策も求められる施工環境

大阪建設業協会（奥村太加典会長）は16日、高校生を対象とした見学会を開いた。府立布施工科高（東大阪市）建築設備系建築システム専科2年生約40人が、「おおさか東線野江地区路盤新設他工事」の現場を訪れた。

施工を担当している奥村組の浦田啓行所長が、現場事務所でおおさか東線や工事概要について説明した後、見学がスタート。駅舎工事の様子を中心に見学した生徒たちは、通過する列車に細心の注意を払い、騒音対策など周辺環境にも配慮しながら作業を進めていることなどを学んだ。

現場事務所に戻り、質疑応答が行われた。生徒たちは「どれだけの人が働いているのか」「仕事の始まりと終わりは」「初任給は」「休みの日は何をしている」など、さまざまな質問を投げかけていた。

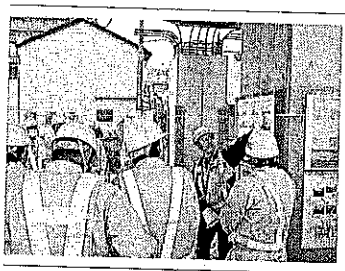
見学会の締めくくりに当たり浦田所長は「ものづくりには感動がある。つらいこともあるが、節目の時には達成感がある。この経験を糧に、これからも勉学に励んでほしい」と述べた。

同工事は建設中のおおさか東線新大阪～放出駅間（11・1キロ）のうち、（仮称）野江駅（大阪市城東区野江）を中心とした長さ1951㍍の区間を施工している。既存の「城東貨物線」の施設や用地を活用しながら複線化と電化を図るもので、工期は2018年6月30日まで。

おおさか東線は新大阪駅から久宝寺駅までの約20・3キロの路線で、このうち放出駅～久宝寺駅間（9・2キロ）は2019年3月に開業した。新大阪駅～放出駅間は、19年春の開業を予定している。事業主体は第3セクターの大阪外環状鉄道、工事発注は西日本旅客鉄道が担当している。

11月 18日(金)　建設産業

おおさか東線ＪＲ野江工事で
布施工科生招き現場見学会
大建協



大阪建設業協会は16日、整備を進めているおおさか東線のＪＲ野江工事（施工＝奥村組）の現場見学会を開催した。大阪府立布施工科高等学校建築設備系建築システム専科2年生41人（内女性3人）と引率教員5人が参加した。

おおさか東線は、新大阪駅を起点に大和路線の久宝寺駅までを整備し、大阪東部を南北に走る路線。城東貨物線（片町線支線）の施設や用地を活用しながら複線化・電化を行うとともに新大阪駅から淡路駅（仮称）までの連絡線を新設する。延長約20・3㌔で放出駅から久宝寺駅までの延長約9・2㌔は08年3月に開業している。現在は、新大阪駅から放出駅までの約11・1㌔で工事を進めている。18年度末の開業を目指している。

同工事区間は第二中宮Bv終点方～第二蒲生Bv終点方までの延長1951㍍。

見学会は、奥村組の浦田啓行ＪＲ野江工事所所長・監理技術者がおおさか東線整備・工事事業の概要及び現場見学概要について説明した後、1～4班に分かれて、普段は目にすることが出来ない駅部の工事を熱心に見学した。見学会後、生徒が「現場で使用している重機の数」「工事の現場人数」「雨の日は何をしているか」など、多くの質問が挙がった。

11月18日(金)　建通新聞

総合ニュース

大建協

おおさか東線現場で見学会

布施工高41人が参加

大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の高校生を対象とした現場見学会が16日、「おおさか東線野江地区路盤新設他工事（施工・奥村組）」現場で行われた。布施工科高校の建築設備系建築システム専科2年生41人（男子38人、女子3人※他引率教諭5人）が参加。日頃の勉強で慣れ親しんでいる建築系施設とは異なる土木施設の工事現場に、興味を覚える生徒もいた様子だった。

現場見学は、工事が進むおおさか東線の仮称・野江駅付近で開催。高架と一部駅舎が出来上がった下り線ホームや、鋼矢板の打設作業などを見て回った。見学後の質疑応答では、「お給料はいくらですか」「仕事はしんどいですか」など素朴な疑問を多数ぶつけていた。

奥村組の浦田啓行現場代理人は、「しんどいこともあるが、やり遂げたとき達成感になる」と答え、これまで携わった鉄道工事での切り替え作業などを懐かしく振り返った。

鋼矢板の打設作業を見学する高校生ら

11月18日(金) 大阪工業

建設進む上り線側基礎工事に真剣な目

大建協見学会「おおさか東線野江地区路盤新設他」

（一社）大阪建設業協会主催による高校生を対象とした見学会が十六日、大阪市城東区蒲生二で建設が進む「おおさか東線野江地区路盤新設他工事」（施工＝奥村組）の現場で行われ、大阪府立布施工科高等学校建築システム専科二年生の生徒四十一人、引率教諭五人が参加した。

工事事務所に集合した一行は、浦田啓行所長から工事概要、説明等を聞いた後、現場スタッフの案内で、（仮称）野江駅の作業現場に移動。躯体が建ち上がった下り線側ホームに入り、貨物列車が走る中、上り線側で土留め鋼矢板圧入などの基礎工事が進む様子を目の当たりにした。

見学を終え、生徒から「仕事のやりがい、大変さについて」「作業員の数は」等の質問が寄せられ、浦田所長らが丁寧に答え、最後に「ものづくりは一つ一つの区切りで成し遂げたというやりがいを感じながら、物を完成させる感動の大きい仕事だ。本日の見学会を今後の勉強に役立ててほしい」とエールを送った。

大阪東部の南北流動を促進し、関西圏の広域ネットワークの一層の充実が図られる「おおさか東線」は、単線の城東貨物線を複線化・電化し、新大阪駅から大阪東部地域を経て大和路線の久宝寺駅を旅客線として整備。全区間延長は約二〇・三㌔で、新大阪～淡路間約三・二㌔は新線建設区間、淡路～久宝寺間約一七・一㌔は複線化区間として整備する。

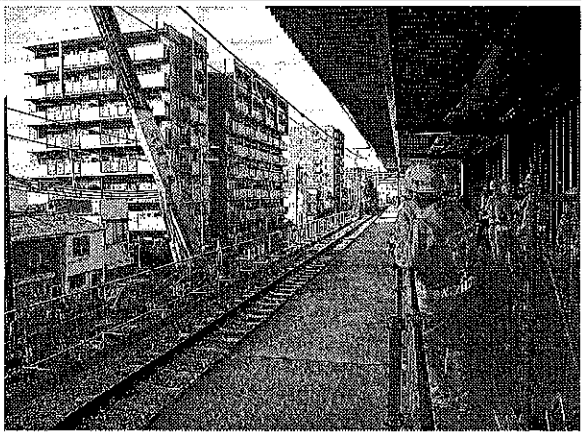
建設主体は大阪外環状鉄道㈱（大阪府、大阪市、JR西日本などが出資の第三セクター）で、平成十一年六月に着工し、二十年三月には放出～久宝寺間九・二㌔の南区間が開業。現在、北区間として新大阪～放出間一一・一㌔で工事を展開しており、三十年度末の開業を目指している。

駅舎は「西吹田」（吹田市）、「淡路」（大阪市東淀川区）、「都島」（大阪市旭区）、「野江」（大阪市城東区）の四駅（すべて仮称）を設置。いずれも高架駅で、ホームは相対式。八両編成に対応し、各ホームにエレベーターとエスカレーターを設ける。

「おおさか東線野江地区路盤新設他工事」は、工事延長一、九五一㍍。進捗率は約七割で、現在、四十一万三千五百時間の無事故無災害を継続中だ。竣工は三十年六月末を予定している。

工事概要等を説明する浦田所長

奥村組が41万3500時間の無災害継続



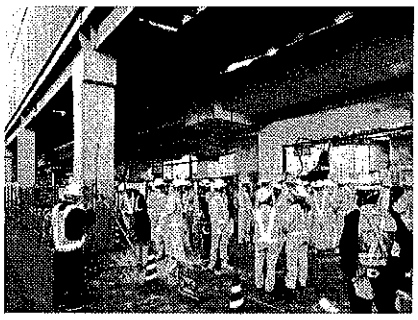
躯体が建ち上がった駅舎ホームから施工状況を見学した

11月25日(金)　建設工業

工高生41人が鉄道建設学ぶ

大建協、おおさか東線現場で見学会

大阪建設業協会（奥村太加典会長）は16日、ＪＲ西日本が工事を進めている「おおさか東線」の北区間（新大阪駅～放出駅間）で現場見学会を開いた。将来の担い手確保につなげるのが目的で、大阪府立布施工科高校建築設備系建築システム専科の2年生41人が参加。奥村組が施工を担当する（仮称）野江駅付近の構造物建設現場を見学し、営業線近接施工の難しさなどを学んだ＝写真。



おおさか東線は、既存の城東貨物線を複線化・電化し、新大阪駅と大和路線「久宝寺駅」を南北に結ぶ20・3キロの路線。放出駅と久宝寺駅を結ぶ南区間9・2キロは08年3月に先行開業し、現在は18年度末の開業に向けて新大阪駅～放出駅間（11・1キロ）で工事が進む。建設主体は第三セクターの大阪外環状鉄道で、ＪＲ西日本が工事を担当。

今回訪れた現場は「おおさか東線野江地区路盤新設他工事」（大阪市城東区）。盛り土拡幅や橋梁新設、（仮称）野江駅の新設などが主な工事で、工事延長は約1950㍍。進ちょく率は65％となっている。

学生たちは、現場の浦田啓行所長（奥村組）から工事内容の説明を受けた後、貨物列車が走行する真横で工事が進む野江駅付近の高架橋現場を見学。施工手順や安全対策、低騒音重機などを使った近隣への環境対策などを学んだ。

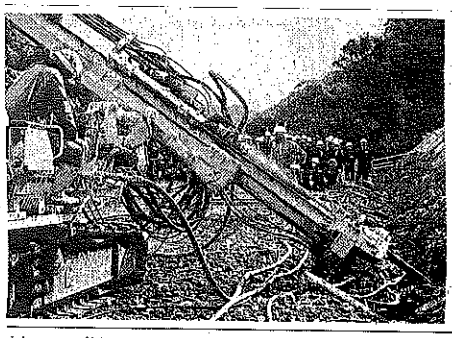
見学会終了後の質疑応答では、学生から「つらいことは何ですか」「どのような時にやりがいを感じますか」など質問が相次いだ。浦田所長は「自分が携わった工事が完成した時は本当にうれしく、やりがいを感じる。皆さんも見学会を一つの糧として頑張ってほしい」と呼び掛けた。

12月7日(水)　建設工業

大建協、堺高生招き見学会

和歌山岬道平井北道路改良で

施工・東急建設



大阪建設業協会（大建協、奥村太加典会長）は5日、近畿地方整備局浪速国道事務所が事業を進める「和歌山岬道路平井北地区道路改良他工事」の現場に堺市立堺高校建築インテリア創造科1年生40人を招き見学会を開いた。同工事を施工する東急建設（長棟淳司所長）の社員が工事概要などを説明したのに続き、現場に移動した生徒はスーパーフロテックアンカーで施工中ののり面工事などを間近で見学した＝写真。

現場事務所の会議室で長棟所長が「めったにない機会なのでしっかりと建設現場を見てほしい。ここでは山を削り道路をつくる土木の代表的な工事を施工している。土木工事を体感するとともにゼネコンの職務についても見てください」とあいさつし、和歌山岬道路の計画内容や施工状況などを解説。

社員は建設業やゼネコンの役割、模型と映像を使ったアンカー工法などを説明した。

一行はアンカー工法で施工しているのり面施工現場に移動し、社員の説明を受けながら施工状況に見入っていた。続いてi-Constructionの取り組みで導入しているドローン（小型無人機）のカメラを使用して記念撮影を行った。

会議室に戻った後、社員はCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）や建設業界を変えるi-Constructionの取り組みを紹介。

質疑では生徒が仕事のやりがいなどについて質問し「ずっと構造物が残ることに魅力を感じている」などと答えていた。

最後に同社大阪支店の渡部邦夫土木部長が「若い人や女性にも働きやすい環境づくりに取り組んでいる。その現状も理解してもらおうと見学会を開いた。いずれ皆さんとは現場の仲間としてお会いしたい」と呼び掛け、生徒代表も「貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。学校の勉強を生かして見学した仕事に就けるといいな、と思いました」と謝意を述べた。

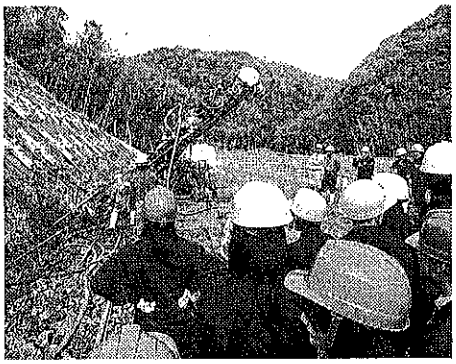
同工事の場所は和歌山市平井で延長440㍍。道路などを施工している。国道26号の渋滞解消などを目的に整備中の第二阪和国道の一つの工区で今年5月に着工した。11月末の進ちょく率は約58%。17年1月31日の完成を目指す。

12月7日(水)　建設通信

市立堺高生が第二阪和道現場を見学

大建協　施工＝東急建設

大阪建設業協会は5日、高校生を対象とした見学会を開いた。市立堺高（堺市堺区）の建築インテリア創造科1年生約40人が、第二阪和国道（和歌山岬道路）の現場を見学した。



打設の様子を見守る生徒たち

新3Kの取り組み知って

訪れたのは、2016年度内開通を目指す同道路淡輪ランプ～平井ランプ間（7・6㌔）のうち、東急建設が施工している平井北地区道路改良他工事の現場。事務所で長棟淳司所長や同社若手社員から道路の基本構造や現場の概要について説明を受けた後、現場内に移動した。

生徒らはまず現場作業の約6割を占める法面工（アースアンカー）の作業の様子を見学した。またドローンやトータルステーションなど、ICT（情報通信技術）化の取り組みなどにも触れた。

事務所に戻った生徒らはICTや女性の積極登用などにより、建設業が新3K（給料・休暇・希望）を目指しているという説明を改めて受けた。その後の質疑応答では「なぜこの仕事を選んだのか」「やりがいは」など、さまざまな質問が寄せられていた。

トータルステーションの説明を聞く様子

最後に東急建設大阪支店土木部の渡部邦夫部長があいさつに立ち、「私たちはかつてのイメージを払しょくしようと、業界をあげて一生懸命担い手の確保に務めている。何年か後に現場の仲間として再会できることを楽しみにしている」と締めくくった。

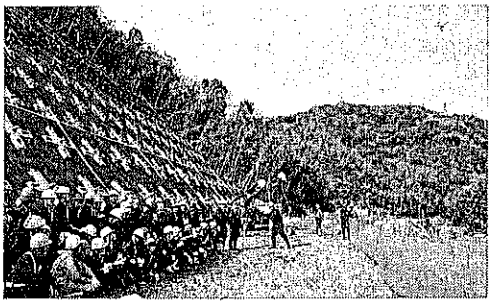
和歌山岬道路は、大阪～和歌山間の国道26号の慢性的な渋滞解消を目的に整備が進められている。事業主体は近畿地方整備局。大阪府阪南市から和歌山市まで20・6㌔の事業区間のうち、淡輪ランプ～平井ランプ間を除く区間は供用済み。

12月7日(水)　建設産業

和歌山岬道路で現場見学会
建築インテリア創造科生徒40人参加
大建協

大阪建設業協会は5日、整備を進めている第二阪和国道の和歌山岬道路平井北地区改良他工事（施工＝東急建設）の現場見学会を開催した。堺市立堺高等学校建築インテリア創造科1年生40人（内女性17人）と引率教員3人が参加した。

第二阪和国道は、阪南市自然田から和歌山市元寺町を結ぶ約20・6㌔の幹線道路で、現在淡輪ランプから平井ランプ間において17年3月の供用に向け工事が進められている。この区間の供用により全線が開通し、国道26号の渋滞緩和や急カーブ・急勾配の解消が達成されるため、緊急車両の搬送時間短縮や物流の効率化による地域の活性化等に重要な役割を果たすと期待されている。


ドローンで上空から撮影

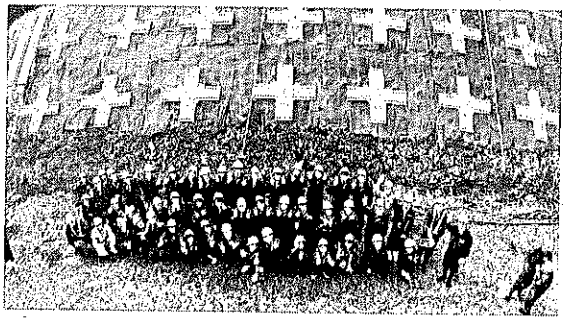
見学会は、東急建設の長棟淳司和歌山岬道路平井北地区道路改良他工事所長が第二阪和国道整備事業・工事概要について説明した後、グラウンドアンカー工等の普段は目にすることが出来ない土木工事を熱心に見学した。見学の最中、ドローンを用いた上空撮影も実施され、場が大きく沸いた。見学会後、生徒が「建築・土木仕事のやりがい」「女性の従業員数」「年の建築・土木仕事の発注数」などについて質問した。

工事概要は工事区間延長4400㍍、道路土工、法面、擁壁、石・ブロック積、排水構造物、付替水路、附帯。進捗率は58㌫。工期17年1月31日。

12月7日(水)　建通新聞

「将来は同じ現場で」

大建協が高校生現場見学会開く



大阪建設業協会主催の高校生を対象とした現場見学会が5日、和歌山岬道路平井北地区道路改良他工事（施工＝東急建設）の作業現場で行われた。堺市立堺高校の建築インテリア創造科1年生40人が参加し、実際の建設現場の雰囲気を肌で感じた。

見学会では施工者が、担い手確保や生産性向上に向けた取り組み、建設業界が抱える課題などを分かりやすく解説。その後、稼働中の現場で法面工などを見て回った。ドローン（UAV）のデモ飛行では上空からの記念撮影を楽しんだ＝写真。

質疑応答では、生徒から「やりがいは」「大変なことは」「給料は」といった素朴な質問が出された。東急建設大阪支店の渡部邦夫土木部長は、「建設業はやりがいのある仕事。将来、同じ現場で一緒に働くことができればうれしい」と答え、建設業の魅力を伝えていた。

12月9日(金)　大阪工業

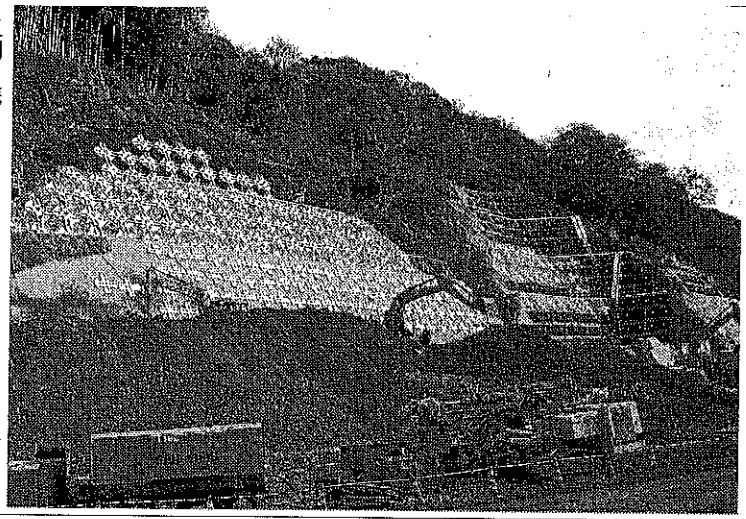
来春開通へ大詰めの「和歌山岬道路」

高校生が大規模法面のスケール実感

一般社団法人大阪建設業協会は五日、最終の事業区間である淡輪～平井間が二十八年度末開通へ向け、工事が終盤を迎える「和歌山岬道路（第二阪和国道）」（近畿地方整備局・浪速国道事務所発注）を対象にした高校生による現場見学会を開催した。

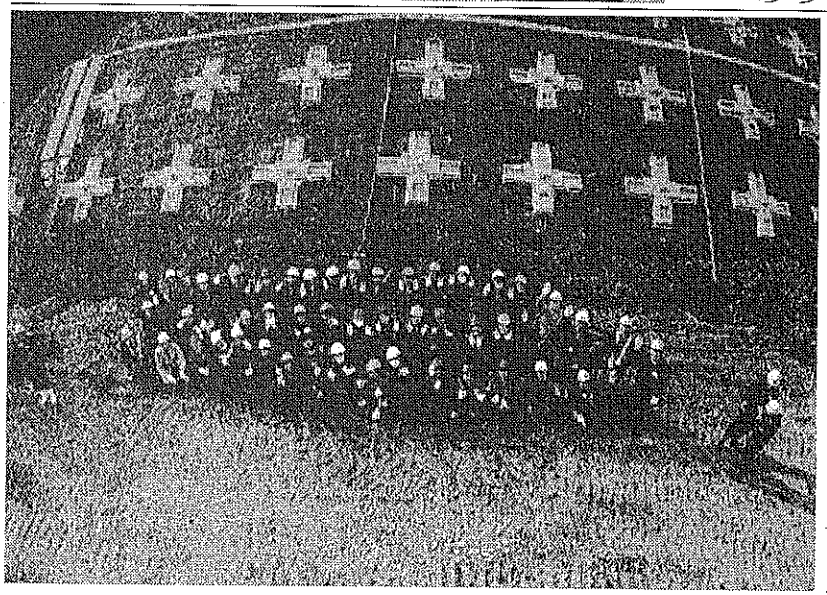
大建協現場見学会　話題のドローンも登場し

今回の見学現場は、「平井北地区改良他工事」（施工・東急建設、長棟淳司所長）で、参加したのは堺市立堺高等学校建築インテリア創造科一年生四十人（男子二十三人、女子十七人）と引率の教諭三人。先進の「CIM」を駆使し、大規模な切り盛りが展開される土木の現場を存分に見て回った。


工期も残り2カ月となった東急建設が施工する「平井北地区改良他工事」の現場を見学

現場見学を前に挨拶する長棟所長

午前十時に堺区向陵東町の同校をバスで出発。途中、阪和道の紀ノ川SAで休憩し、十二時半頃に和歌山市平井地先の東急建設の現場事務所に到着した。


法面を背にグラウンドアンカーの施工現場で空中のドローンにサインを送り記念撮影

渡部土木部長は建設業の魅力を語った

見学に先立ち、この日のために事務所サイトに急遽設けられた特設の施設で事業の説明を受けた。まず、長棟所長が挨拶に立ち、「ようこそ和歌山へ来てくれました。是非この機会に土木の現場、そして我々ゼネコンはどんな仕事をしているのかを見て頂ければ幸いです」と述べ、その後パワーポイントで第二阪和国道全体および今回の工事の概要説明を受け、その後数百メル離れた現地へバスで移動した。

東急建設の〝けんせつ小町〟らも高校生の素朴な質問に丁寧に回答

来年一月末が工期という、道路改良の現場はまさに最盛期。特に施工上大きなウエートを占める法面工は大詰めを迎えており、グラウンドアンカーを打つ現場へは仮設の階段を一列で昇り、事前に入念な説明を受けた切り土面では、大口径・長孔穿孔をこなすフィード装置を搭載したクローラドリルが稼働する様を興味深く見学。

最新の測量機器（トータルシステム）やアンカーを固定するPC鋼線の実物も披露され、最後に空中のドローン（UAV）から、サインを送る生徒らを記念撮影した。

この後、事務所に戻り、大阪支店からこの日のために駆けつけた渡部邦夫土木部長や安藤滋総務部長、さらに普段は本社で勤務する〝けんせつ小町〟らも加わり、「なぜこの仕事をえらんだのか」「つらいことはないですか」など約二十にも及ぶ質問に丁寧に答えた。

渡部土木部長は「建設業はやりがいのある仕事です。将来皆さんと一緒に働くことができればうれしい」と述べ、最後に生徒の代表が謝辞を送り、約半日という限られた時間ながら、楽しくも充実した見学会を締めくくった。

建設の魅力 現場の声を通して再発見